



## 看護師つれづれ日記③ 訪問看護師のつぶやき

私は、長年、病棟勤務をしておりましたが、このたび念願の訪問看護の道へ進みました。

私が訪問看護に憧れたのは、病棟で「帰りたい」という患者様の声や、入院生活の中でも自分の生活習慣を大切にしながら過ごす患者様を目の当たりにしたからです。「病院」という治療中心、検査、治療、面会制限などに優先されることなく、自宅で家族と共に穏やかに暮らしながら、必要な治療だけを行い、生活を大切にします。私は、そんなケアをしたいと考えるようになりました。

### ◇一人のための一時間

「この時間はこの患者様だけのもの」  
訪問看護を始めて、最初に感じたことです。これは病棟との大きな違いの一つだと思います。ケア中に他の用事や他の人から呼ばれる事がない。（呼ばれることが嫌な訳ではありません。）病棟でケアしていると次から次へ、点滴交換、ナースコールが鳴ります。患者様は皆バタバタしている中で入院されているため「忙しいのにごめんね。行かなくても大丈夫？」と仰り、ゆっくり話をしても「時間大丈夫？」とナースの行動に気を遣ってください

ます。私は「忙しい」と思わせて申し訳ないとはよく反省していました。

訪問看護は訪問したら、その時間はその方だけの時間です。全部一人の患者様のために使うことができます。ほかのこごと同時進行することなく、ケアができます。また、患者様に「忙しいのに」と気を遣わせることなく、ゆったりとした時間の中で全身状態を見て、ご本人ご家族とお話しして清潔ケアをしたり、処置が行えます。余すことなく、全力でケアしようと思っています。

### ◇家にある物で代用する楽しさ

一般家庭では病院のように全ての物が揃っているわけではありません。もちろん、感染対策としての清潔、不清潔対策は必要ですが、他の人との使い回しもないので、全てが使い捨てである必要もありません。

### 「家にある物で代用する」

洗髪車の代わりにオムツを敷いてシャンプーをする。ペットボトルをシャワーボトルの代わりにする。牛乳パックの薬ケース等々、患者さんと一緒に考えていきます。点滴棒の代わりにカーテンレールにS字フックをかけたたり、三脚を使ったりして、点滴をかけたります。牛乳パックの薬箱に飴が入っていたり、ペン立てになっていることもあります。発明創意工夫が楽しいです。

### ◇患者様の生活を大切に

病棟に入院されている患者様は、皆さん緊張されています。治療中心の怖いイメージの病院に来て、ベッドだけで生活し、点滴の時間、検査の時間など病院の時間の中で過ごすからだと思えます。でも、家では違います。住み慣れた生活の場で、好きな物に囲まれ、自分の習慣を大切に過ごされています。病院では、ナー스가行くとTVを消す方が多かったので（気を遣われているんですね。）在宅ではほぼTVはついていています。患者様の家なので自由で良いと思います。

人を家に入れる事を好まない方もたくさん居ますが、訪問看護は必要とされ、家に入れてくれる。私はご自宅に伺う時、患者様の聖地にお邪魔させて頂く思いで、とても緊張します。「来てくれてありがとう」と、暖かいお言葉を頂きますが、「こちらこそ、お家に入れてくれてありがとうございます」と思っています。呼ばなければよかつたと思われないうように思わせないように、在宅のメリットを生かしてケア出来る様に努めたいと思っています。もちろん患者様の生活ペース優先で。  
「病気ではなく、人を見る」  
病棟勤務時代、よく言われました。  
ナースとして約二十年働いてきて、訪問看護に飛び込んで一年目、この言葉の意味を改めて考えています。

